

融雪設備の概要

- パターン1(P1)

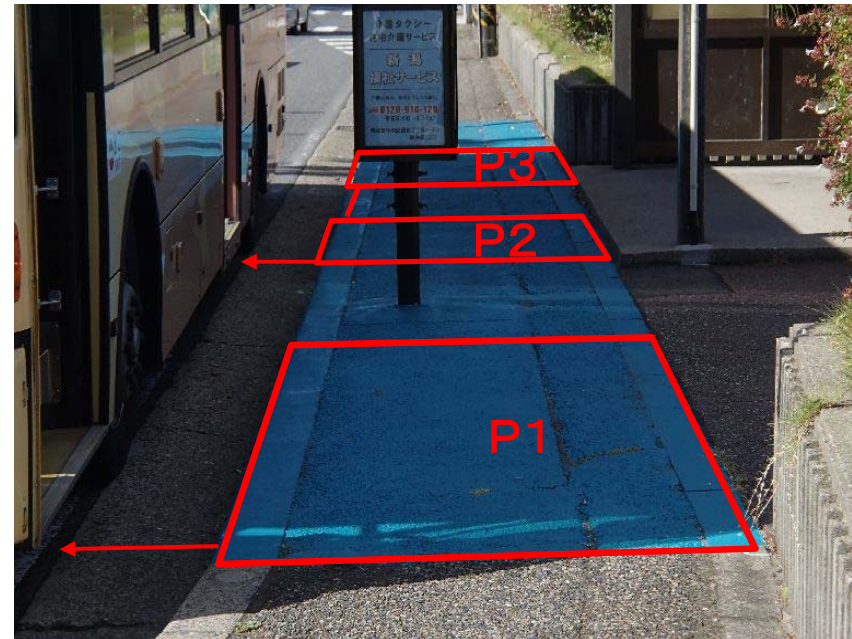
H24年度と同じ構造とし、下水温度・流速・流量が異なる場合での放熱量を把握する。6本中1本をむき出しにし、放熱量と腐食状況を確認する。

- パターン2(P2)

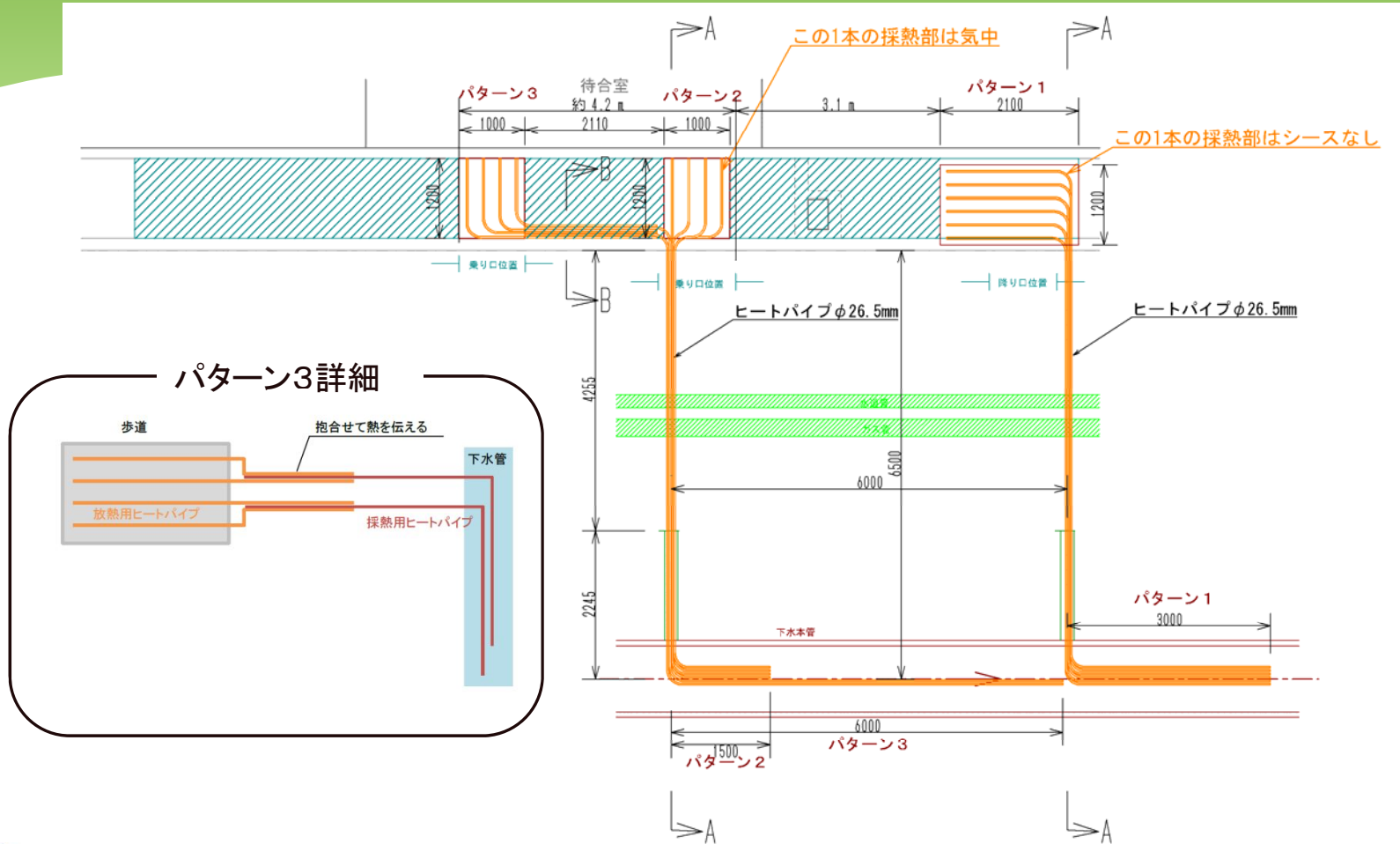
乗車口に合わせ小面積とし、4本あるパイプのうち1本は下水に入れず空気中に置き低下量を把握する

- パターン3(P3)

乗車口に合わせた小面積とし、放熱管4本に対し採熱管を2本とすることで管内断面積の確保を狙う



設置図

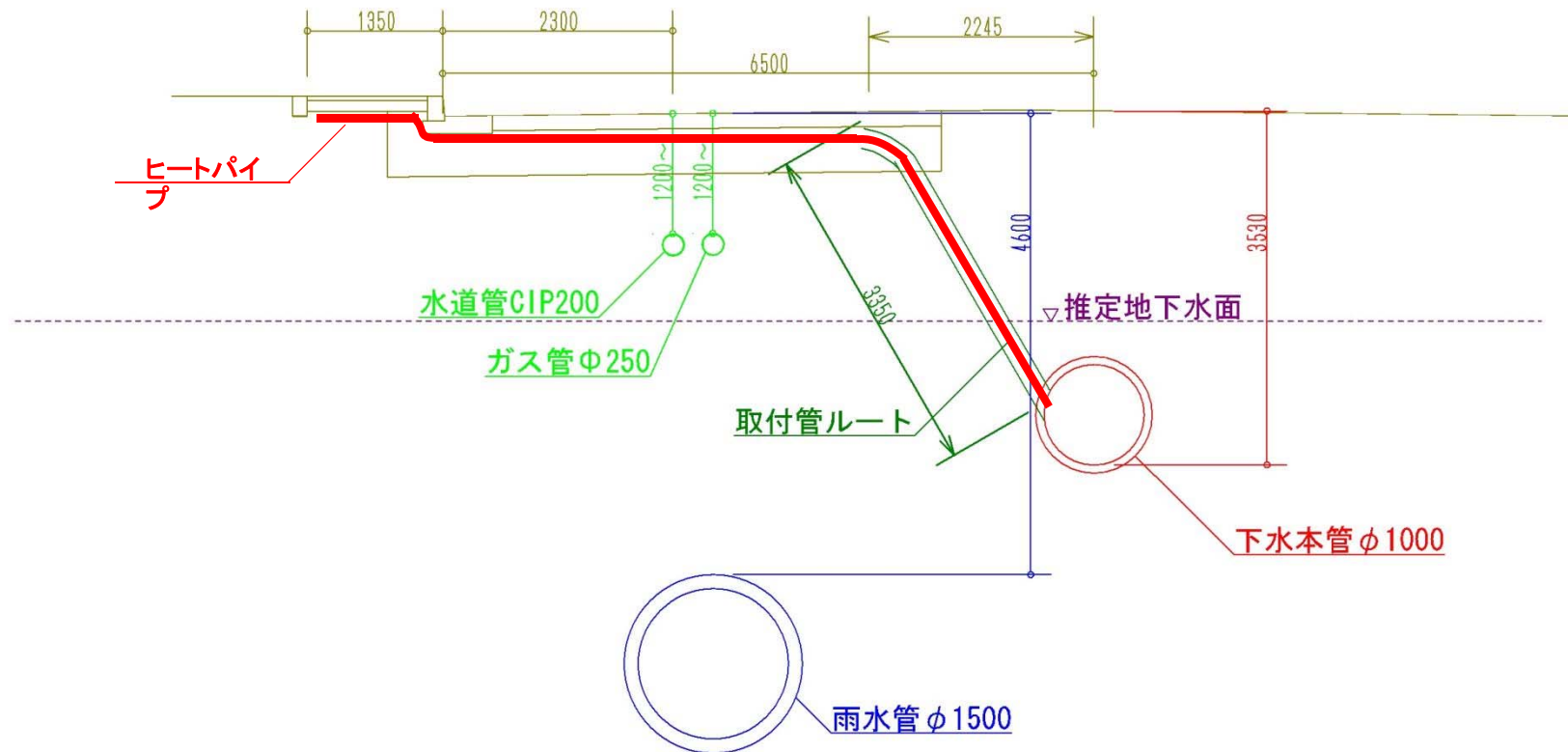


平面図



設置図

A - A 断面図 S=1:100



断面図



ヒートパイプ[®]布設状況



P1放熱部



道路横断部

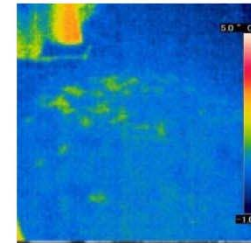
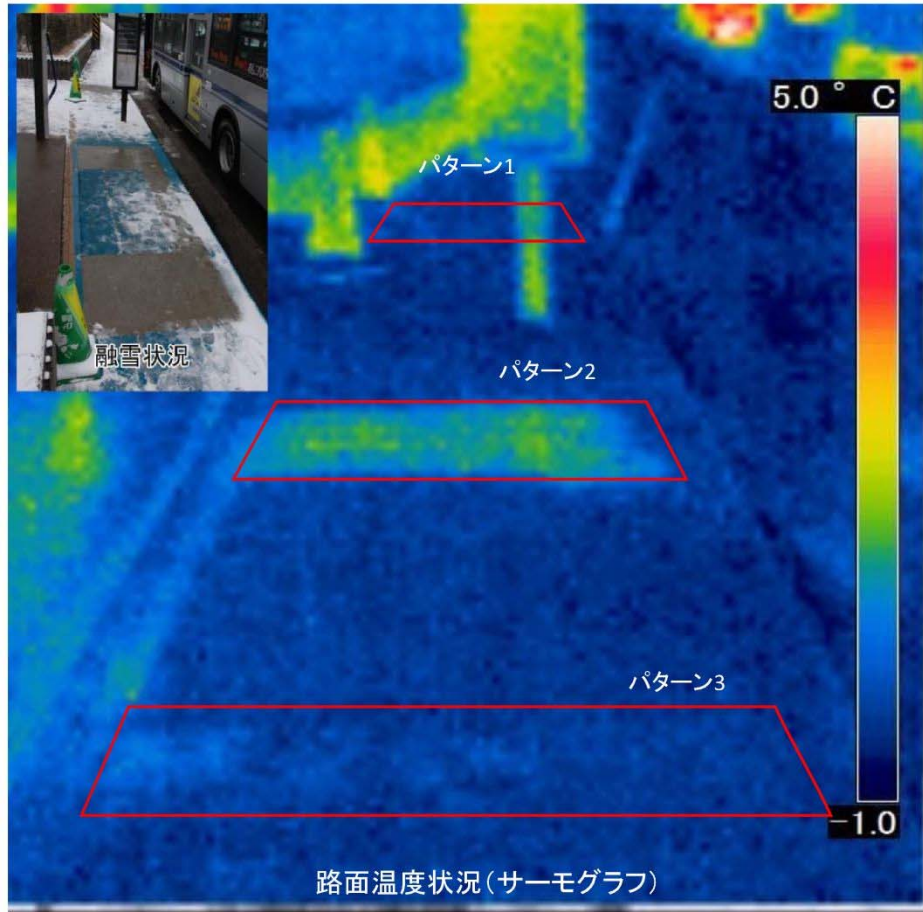


採熱部



融雪状況

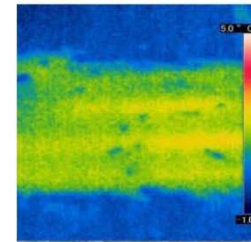
平成26年1月19日



パターン1



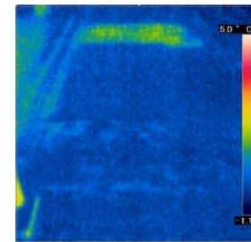
1: 放熱部根本側のみ露出



パターン2



2: 良好に融雪



パターン3

3: シャーベットが薄く残る

